

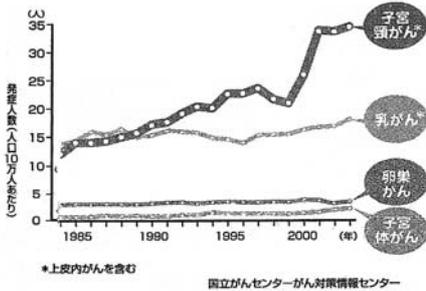


野網義一 議員

子宮頸がんワクチンに助成を！

おたふく風邪・水ぼうそう・肺炎球菌も検討

20～39歳の女性10万人当たりの
各種がんの発症率推移



町長
すべてを公費で賄うことはできないが、一部を助成していく形で検討したい。それ以外にも全額負担になっている水ぼうそう、おたふく風邪、高齢者の肺炎球菌の問題もある。医師会と調整し対応したい。

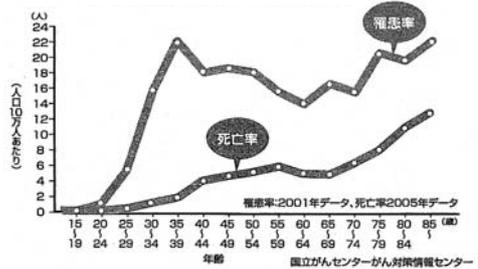
子宮頸がんワクチンが日本でも昨年12月より発売された。子宮頸がんはこのワクチンを接種する事によって8割は防げ、さらに、検診と併用することによって「予防ができるがん」と言われている。接種年齢は10歳から可能で、ワクチン接種に助成する自治体が広がりつつある。池田町でもぜひ助成されたい。

町長
中央公民館にも部屋数に限りがあるので会議もできるよ

町長
中央公民館の利用が増え会議室が思うように取れなく、日程や会場を変更することがある。視聴覚室も20年度177回2100人、21年度1月までで3000人と大幅に増加。床の全面張り替え、会議用長テーブルへの変更、照明スイッチを西出入口付近に付け替えて多方面に活用できるように改修されたい。

中央公民館視聴覚室 改修し多面的利用を

子宮頸がんの罹患率と死亡率



自主運行バスが昨年10月より3月8日までの間に延べ1104人の利用があった。試行期間は残り僅かだが、高齢化社会の進行でますます必要になる施策。また、22年10月には名阪近鉄のバス路線も廃止になる。

県内の市町村のほとんどが公共交通会議を立ち上げているのに池田町は無い。自主運行バスの充実に向け提言します。

「バス停の位置がわからない。目立つ表示を」「図書館や公民館が利用できる曜日に運行してほしい」「本数を増やしてほしい」「バスにステップを付けてほしい」「バス停間が広すぎる、小回りのきく路線を」「バス停は日よけや雨除け風除けができる場所で」等々様々な意見が寄せられている。

自主運行バスの充実を 試行期間を一年延長し検討します

う改修します。スイッチは利用者の便利な所へ、床は利用

者の意向を確認して対応します。

町長

開始当初は月177人だったが12月には222人と増えている。池田温泉以外の利用も徐々に増えつつある。試行期間を一年間延長し、バス停の位置は早急に直します。自主運行バス研究協議会、公共交通会議等をつくりソーシャルビジネスの創出も含め検討します。



A4の用紙にラミネート ここがバス停
大きな文字でわかりやすい表示を！